

観光ガイド事業先進地視察 観光担当講師と学生が青森・岩手県を訪れました



稚内北星学園大学メディア学部
地域創造学科 講師 藤崎達也
4年 阿部卓 大井峻司 布目勇氣

はじめに

去る9月1～3日、COC観光支援室ではまち歩きガイドの先進地の視察に訪れました。

これまでの活動経緯

この視察は観光を専門に学ぶ学生を中心に、ガイド事業をビジネスとして行なっている青森県弘前市「路地裏探偵団」と、支援室長の藤崎講師がプロデュースを行なった岩手県田野畑村「体験村たのはたネットワーク」で、聞き取り調査のや実際にツアーに参加し、さまざまな課題などを伺う趣旨で、平成27年度COC助成事業として実施いたしました。

視察の様子

(1) 弘前路地裏探偵団

城下町で元々路地が多く、「土手町」という地名の通り地形的にも複雑な弘前の街並は、観光客などが安心して楽しむことができなかつたそうです。しかし「路地裏にこそ弘前の魅力がある」と考えた有志と弘前観光コンベンションとがタイアップし「弘前路地裏探偵団」と敢えて怪しげな名前のガイド組織を運営している。テレビ局やコミュニティFMなどと連携したパブリシティや、マーケティングの戦略性の高さを伺うことができた。



ガイドの案内のもと路地裏の商店主と語り

(2) 体験村たのはたネットワーク

このネットワークは本学で観光学関連の講師を務める藤崎講師が2003年から3年間、厚生労働省雇用創出事業にて体験型観光のプロデュースを行なったもので、立ち上げ当時の苦労や展開などについても詳しく知ることができた。順調に売り上げを伸ばしNPO法人も立ち上げたところ、田野畑村は2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた。しかし、被災地域では数少ない事業型ガイドとして定着していたため、被災後7月には事業を再開し、特に被災地を視察に訪れる人などに、津波の体験と教訓を語る「津波語り部&ガイド」は、他の被災地での語り部サービスの手本となっている。



津波が襲ってきた様子の解説を受ける学生

今後の展望

どちらもこの10年でビジネスの基礎を築き、他のボランティア団体との調整や、マーケティングなどの面で参考になる点が多かった。この視察を元に稚内の観光に役立てる方法などを学生たちは研究していきます。

なお、視察の詳細や、まちづくりにおけるガイド事業の役割等について学生による発表が行なわれます。これ以外にも、本学教職員などによる多彩なCOC事業の様子を紹介しますので奮ってご参加ください。

第3回 地域活動報告会実施計画

日時 10月20日(火)14:30～16:00
会場 本学1301教室
内容 口頭発表 + ポスター発表